

中学生の 「税についての作文」

●全国法人会総連合会長賞
●東金税務署長賞

税について考えたこと

横芝中学校1年

小林 由花さん

私の中学校は、新設移転して三年目なので、校舎もグラウンドも体育館も全てが真新しくとっても立派で快適に勉強することが出来ます。この学校の建設費は約二十九億円もかかったそうです。ものすごい金額ですが、これも税金からつくられているそうです。

又、私ひとりに使われている税金を調べてみると、一年間の教育費九十五万七千円、子ども手当月額一万三千円、他には医療費も町に申請すれば、全額助成され戻ってきます。一ヶ月にすると、約九万三千円もの金額が税金から私のために使われていたのです。これが日本中の子供達に使われていると考えると、巨大な

金額になりますね。当り前のように私達は教育を受け生活している中で、様々な形で沢山の税金が使われていて、びっくりしました。実を言うと私は、税金はお金がとられてしまうとと言うイメージを持っていたので、税金は少ないほうがいいと思っていました。しかし、私達の暮らしは、国民が所得税や消費税など色々な方法で納めている税金で、誰もが安心して生活が出来るように公共サービスが行われ、成り立っていたのです。

私が税金のことを調べ、一番驚いたのは、一年間の国家予算が税金で集めた金額を大きく超えて作られていることでした。税収でまかなっているのは、全体の四割ほどで五割弱は、公債費に依存していたのですから。つまり、国が借金を毎年増やし続けて、国が運営されているのです。だから歳出も、国民への公共サービスのために使われるだけでなく、二割弱も国債の元利払いに充てられているのです。この借金は、私達の

未来にも大きな負担がかかり続くことになりそうです。このままいつたら国が破綻するようになることにならないのでしょうか。私は、すごく不安になりました。

また、少子・高齢化が進み、公共サービスの軸である社会保障費は、どんどんふくらみ、それを支える働き手が減少していることは、切実な問題です。私達が働きはじめた二十六才の時には、一・八人で一人のお年寄りを支えることになるそうです。社会保障の医療・福祉・介護・生活保障は、どれもなくてはならない重要な公共サービスです。しかし、それを保障し、継続させていくためには、税収をふやし、徴収のしくみやバランスを、時代に合わせて変えていく必要があると思うのです。例えば消費税も日本では五%ですが、ノルウェーでは、二十五%、韓国では十%と、各国で随分違います。消費税だけでなく間接税の税率を上げれば、働き手だけにかかる負担が軽減できると思います。

私は、私達が支払う税金で豊かで安全・安心な社会が実現していることを知り、税金について正しく理解し、誰もが責任を持って関わっていかなくてはいけないと強く思いました。みんなで考え知恵を出し合い、よりよい未来にしていかなければならないのです。

東京国税局長表彰を受賞

伊藤 信男 さん (橋場)

銚子青色申告会光地区会長として、会の発展に多大な貢献をされました。

また、平成18年町村合併に伴う東金青色申告会との合併の際には、同事業の実現に奔走されました。

さらに、「税を考える週間」期間中には、支部勉強会を積極的に開催されるなど、税知識の普及・納税道義の高揚に大いに尽力されました。

その功績により、去る11月1日「KKRホテル東京孔雀の間」におきまして、栄えある東京国税局長表彰を受賞されました。

